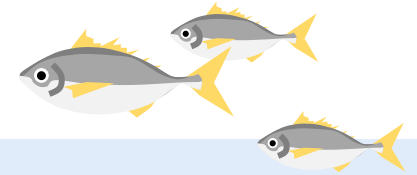


『8月の釣』タコ釣り編活動報告



8月2日、東京湾でマダコ釣りを行ないました。

集まったのは、精鋭5名。コロナ前の最盛期には、船 1 艘を貸し切り(仕立て船と言います)で行なっていましたが、人数が揃わず、いろいろな方が乗る乗合船に5人並んで釣りました。

船宿は、川崎市の鶴見川にある新明丸。7時前には、船に乗り込み、支度をして7時半に東京湾に向けて出航しました。

ほんの15分くらい走って、海に出たところの岸壁寄りで船長さんの「どうぞ」のアナウンスで期待を込めて仕掛けを降ろします。

タコ釣りというと、釣りをしない人からは、タコ壺を降ろすと思われる。それは、漁師が行うタコ漁で、竿にリールを付け、釣り糸の先にエビの形をしたエギという和製ルアーを付け海底まで降ろし、チョコチョコと動かします。

タコさんが「わーい！エサだ」とエギに乗ったところで、竿に重さがかかるので、グィ！と竿を挙げると、エギの後ろの針が刺さってくるという寸法です。

タコさんは海底にいるので、タコさんだと思ってグィ！と上げると時に海底の岩に針や錘が引っかかって、地球を釣ることになります。無論、地球が持ち上がることは無く、外れなければ、糸が切れ、がっかりします。



さて、しばらくして、Tさんが続けて2匹釣ります。さすが、他の人とは一桁違う高級な竿やリール、エギも 1つ1000円以上的高级品を使っていることから、タコも違いが分かるのかな〜と横目で見て感心していました。

みんなもポツポツとタコを釣っていました。私はというと、私だけ釣れていません。6月に自分の竿を折ってしまったため、倅の竿を借りていったせいか、感覚が分からず、地球を釣ってばかり。エギを4本も取られてしまいました。でも、まあ、ダイソーで売っている1つ200円のエギだから、被害は大したことはありません。

10時頃になって、やっと竿の調子がつかめ、1匹、1匹と皆を追い上げました。

船は、鶴見から横浜ベイブリッジあたりまで、釣れる場所を探しながら、流していき、午後3時に帰港となりました。

1人3匹から11匹。ただし、最大600グラムぐらいのタコで、小さいタコが多かったので、大漁とは言えませんが、明石のタコより美味しいタコですから贅沢は言えません。

釣りは、対象の魚により色々な楽しみ方があります。共通しているのは、どこの店にも売っていないような新鮮な魚が食べられることです。

9月は、これまた絶品の東京湾の金アジを釣りに行く予定です。皆さんもいかがですか？

文…釣部 岩瀬 雄一

